

家族アンケート調査報告

薬家連調査研究部

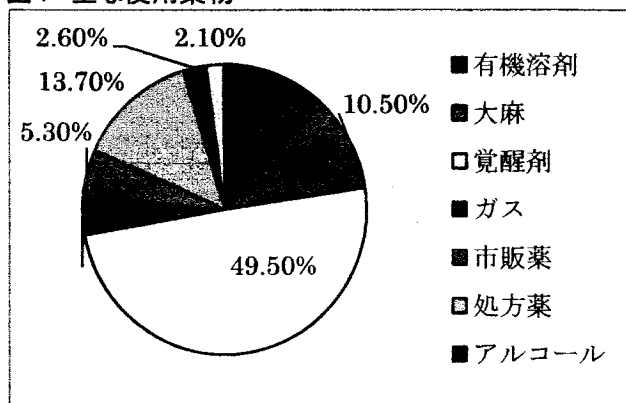
この調査は、ファイザープログラム助成を受け、平成21年3月～5月の間に、5つの家族会（仙台家族会、アディクション家族会とちぎ、茨城ダルク家族会、ドムクス・しずおか、愛知家族会）の協力の下に191名のご家族に対して行ったものです。ご協力くださった皆様に感謝申し上げます。

I 薬物を使用しているご本人について

薬物を使用している本人の性別は、男性が80%。女性が20%であった。年齢は、平均31.4歳。最少年齢は18歳。最大年齢が52歳であった。

主な使用薬物は、覚せい剤が49.5%と圧倒的に多かったが、次いで多かったのが、処方薬13.7%、有機溶剤12.1%、大麻10.5%であった（図1）。

図1 主な使用薬物

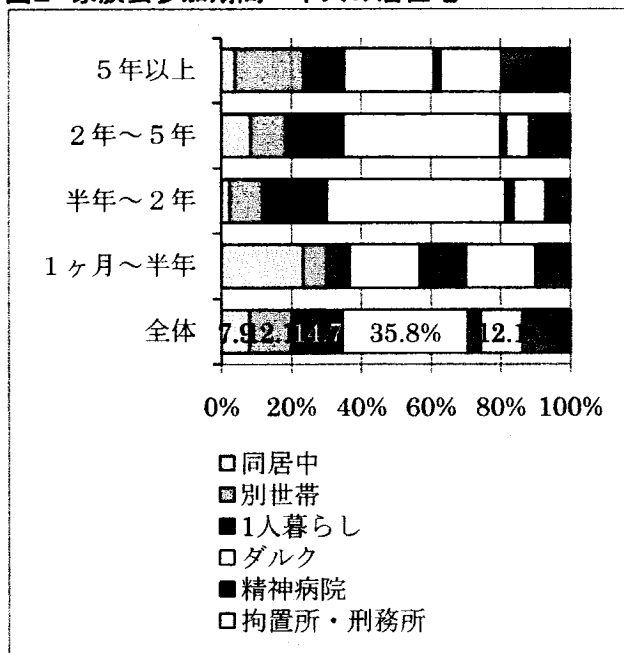


本人の調査時の居住地としては、同居中7.9%。別世帯12.1%。1人暮らし14.7%。ダルク35.8%。精神病院3.7%。拘置所・刑務所12.1%。不明・その他13.7%であった。

これを、家族の家族会参加期間別に見てみると、家族会参加1ヶ月～半年では同居しているケース（23.3%）や、拘置所・刑務所（20.0%）、精神病院（13.3%）などが多く見られたが、家族会参加が半年以上経過する頃には、ダルク入所が51.2%と高くなっている。一方、5年以上参加の中では拘置所・刑務所が17.6%みられた（図2）。

本人のダルク入寮経験は、「ある」が67.9%。「なし」が32.1%であった。「ある」と答えた中で、ダルクの利用回数について聞いたところ、ダルク利用回数は平均2.2回。最も多いケースでは約20回という回答もあった。

図2 家族会参加期間×本人の居住地



II 家族自身のことについて

家族会に参加している人（家族）について、性別は男性が28.0%。女性が72.0%。年齢は、平均が59.5歳、最少年齢が28歳。最大年齢が74歳であった。本人との関係は、親の立場の人が96.8%であった。

家族の職業は、会社員などが23.3%。専業主婦22.3%。パート・アルバイト18.1%。年金受給17.0%。自営業18.6%であった。

家族会への、のべ参加回数は、平均36.7回。最少が1回、最大が480回であった。家族会への参加期間は、1ヶ月～半年が16.4%。半年～2年が23.5%。2年～5年が32.3%。5年以上が28.4%であった。

配偶者等の家族会・自助グループ参加経験は、「あり」が52.2%。「なし」が47.8%であった。

家族の中で、薬物問題について何でも話し合える人がいるかどうかを聞いたところ、「はい」が87.3%。「いいえ」が12.7%であった。「はい」と答えた中で、その人の関係について聞いたところ（複数回答可）、配偶者が82.4%。本人以外の息子や娘が43.0%であった。

また、家族以外で薬物問題について何でも話し合える人がいるかどうかを聞いたところ、「はい」が46.3%。「いいえ」が53.7%であった。

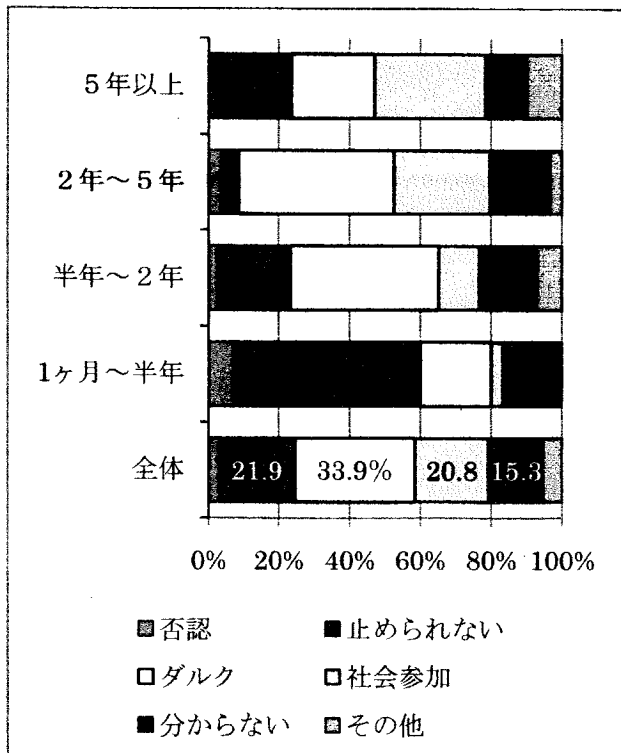
Ⅲ 現在の状況について

家族から見た調査時の本人の心境・状況について聞いたところ、「否認（薬物の問題があることを認めない段階と定義）」が2.7%。「止められない（薬物の問題を認めているが止める気はない、若しくは止められないと定義）」が21.9%。

「ダルク」が33.9%。「社会参加（社会の中で薬物を使わないで生活をしていると定義）」が20.8%。「分からない」が15.3%であった。

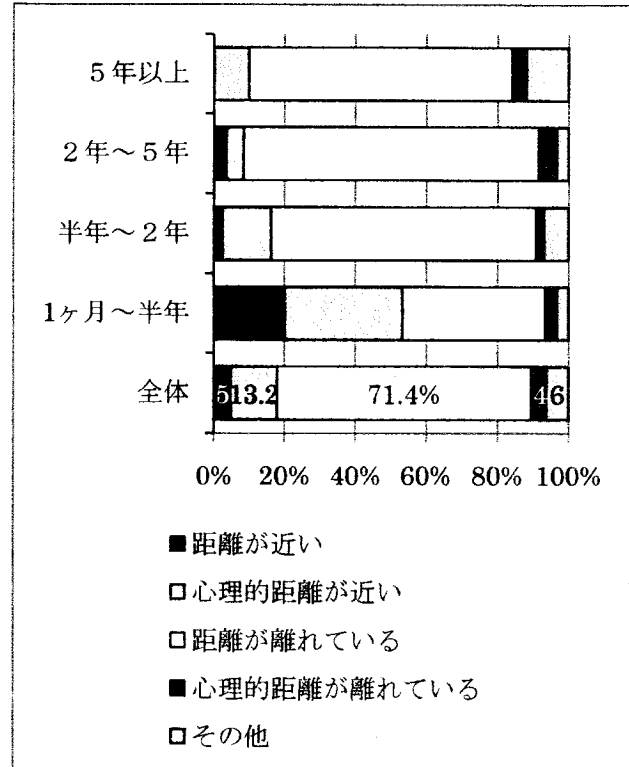
これを、家族会参加期間別に見てみると、1ヶ月～半年の場合には、「否認」若しくは「止められない」が60%であったが、半年以上を経過すると、ダルク入寮が41.9%と増えており、2年以上経過すると、27.1%と増えている。一方で、5年以上経過していても「止められない」が23.5%見られる（図3）。

図3 家族会参加期間×本人の心境・状況



次に、調査時の家族と本人との関係（物理的・心理的距離）について聞いたところ、「物理的にも心理的にも距離が近い」が4.8%。「物理的には距離が取れているが、心理的には近い」が13.2%。「物理的にも心理的にも距離が取れている」が71.4%。「物理的には距離が近いが、心理的には離れている」が4.2%であった。これを、家族会参加期間別に見てみると、1ヶ月～半年では「物理的にも心理的にも距離が近い」若しくは「物理的には距離が取れているが、心理的には近い」が53.3%であったが、半年を過ぎた頃には心理的に距離が取れるようになっていくことが分かる（図4）。

図4 家族会参加期間×本人との距離



本人が断薬をするために、本人にとって役に立ったと思われる機関やグループ等について聞いたところ、「ダルク」が62.3%と最も高く、次いで、「精神科の医療機関」が20.4%。「家族」及び「少年院・刑務所」が14.7%。「職業についたこと」が9.9%であった。一方「まだ止まっていない」と答えた人が12.0%見られた。

IV 家族会に求めるもの及び家族の心境について

家族会に求めていること、参加している理由等について聞いたところ（複数回答）、「自分が回復・成長したい」が70.2%。次いで、「薬物依存症という病気についての知識を得たい」が63.4%。「家族会に参加すると元気がもらえる」52.4%。「ダルクやNAメンバーの体験談を聞きたい」51.3%。「本人に自立してほしいから」50.8%。「他の家族の体験談が聞きたい」48.2%。「12ステップのプログラムを勉強したい」45.5%。「本人との新しい関係性の構築について」43.5%。「誰にも話せないことが話せる」42.4%。「家族会の仲間に会いたい」36.6%。「自分が本人に関わりすぎないでいられるようにするため」33.0%。「家族会の仲間に勇気づけてもらいたい」32.5%。「家族会に参加することが楽しみだから」30.4%。「本人との距離を取るため」30.4%。「自分の過去の棚卸し」29.3%。「本人との関係を修復したい」28.8%。「プログラムを勉強したい」28.3%。「家族会に参加するように勧められたから」27.7%。「本人がどのような回復をするのか知りたい」27.7%。「本人をダルクにつなげたい」25.7%などが挙げられた。

これを家族会参加期間別に見てみると、家族会参加期間が長くなるにつれて回答率が高くなっていく傾向がみられた項目としては、「自分が回復・成長したい」「家族会に参加すると元気がもらえる」「12ステップのプログラムを勉強したい」「本人との新しい関係性の構築について」「家族会の仲間に会いたい」「自分が本人に関わりすぎないでいられるようにするため」「家族会に参加することが楽しみだから」「本人との距離を取るため」「自分の過去の棚卸し」「本人との関係を修復したい」「プログラムを勉強したい」などが挙げられた。

一方、参加期間が長くなるにつれて回答率が低くなっていく傾向がみられた項目としては、「薬物依存症という病気についての知識を得たい」「本人に自立してほしいから」「他の家族の体験談が聞きたい」「家族会の仲間に勇気づけてもらいたい」「家族会に参加するように勧められたから」「本人がどのような回復をするのか知りたい」「本人をダルクにつなげたい」などが挙げられ

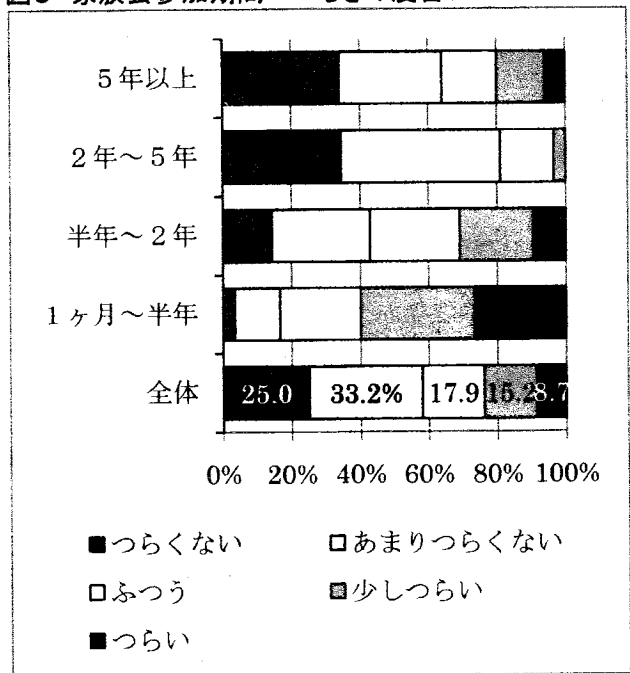
た。

また、「ダルクやNAメンバーの体験談を聞きたい」「誰にも話せないことが話せる」などは、家族会参加期間に関わらず回答率が高かった。

家族の心境について、「つらさの度合いを1～10で表すとしたらいくつになるか」を聞いたところ、「つらい（10段階の10及び9）」が25.0%。「あまりつらくない（10段階の8及び7）」が33.2%。「ふつう（10段階の6及び5）」が17.9%。「少しつらい（10段階の4及び3）」が15.2%。「つらい（10段階の2及び1）」が8.7%であった。

これを家族会参加期間別に見てみると、1ヶ月～半年までは「つらい」及び「少しつらい」が60.0%であったが、2年～5年では、「つらくない」「あまりつらくない」が81%を占めていた（図5）。

図5 家族会参加期間×つらさの度合い

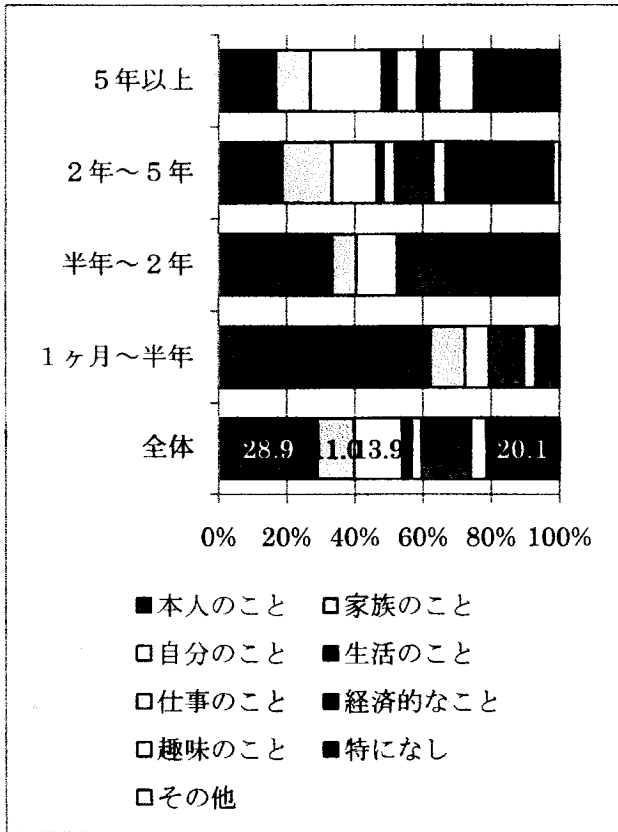


次に、「今一番困っていること・知りたいこと、もしくは興味のあるテーマ」について聞いたところ、「本人のこと」が28.9%。「家族のこと」が11.0%。「自分のこと」が13.9%。「経済的なこと」が14.5%などが挙げられた。

これを家族会参加期間別に見たところ、1ヶ月～半年では、「本人のこと」が62.1%と高かったが、参加期間が長くなるにつれて、だんだんと

低くなっていくのが分かる（図6）。

図6 家族会参加期間×困っていること・関心のあること

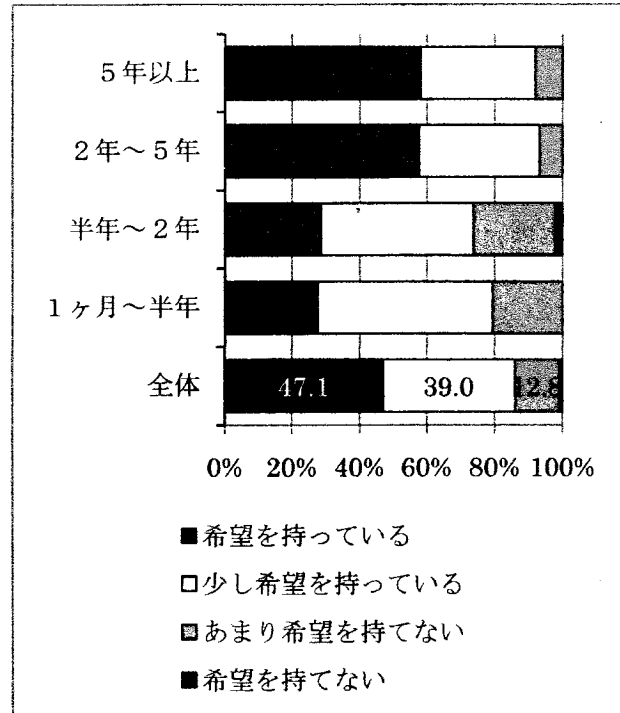


次に、「自分の人生について希望が持てるか」について聞いたところ、「希望をもっている」が47.1%。「少し希望を持っている」が39.0%。「あまり希望をもてない」が12.8%。「希望をもてない」が1.1%であった。

これを家族会参加期間別に見てみると、1ヶ月～半年及び半年～2年では「希望をもっている」が30%程度だったが、2年～5年及び5年以上になると、60%近くが「希望をもっている」と答えており、「少し希望をもっている」を合わせると90%を超えている（図7）。



図7 家族会参加期間×人生への希望



最後に、「本人は薬物依存症から回復できるという希望が持てるか」について聞いたところ、「希望をもっている」が47.0%。「少し希望をもっている」が42.7%。「あまり希望をもてない」が10.3%。「希望をもてない」は0.0%であった。

これを家族会参加期間別に見てみると、1ヶ月～半年では「希望をもっている」が34.5%だったのに比べ、5年以上では59.2%に上っている（図8）。

図8 家族会参加期間×本人の回復への希望

